

# Somekōbō Masashige Yuzen

染工房 正茂は手描友禅の技術や日本の伝統的な感性を使ってデザインしている。  
身につけた人が「たおやかな気持ち」になれるようなものづくりを心がけ、技術だけでなく様々な発想から商品制作に励んでいる。



染工房  
正茂

**Craft:** 友禅

**A director:** 上仲 正茂

**Address:** 京都市北区大北山原谷乾町40-21

# I4

## interview

### with

#### Masashige Uenaka

上仲 正茂 染工房 正茂  
友禅職人



幼少の頃より絵を描き、職人である父の影響から友禅職人となる。すべての工程を一人で手がける手法をとっている。



#### 失敗することはありますか？

普段着物は絹なんですよカシミアとか綿とか麻とか慣れない素材や染料を使う時に失敗をしちゃうんですよ。例えばこれなんかは、色を白で保つ 為に糊で伏せて防染してるんですけど糊に抜染作用とか脱色する作用があってそれを防ぐための助剤を入れてはいるんですけど慣れっていうものがあるってこのくらいの量でいけると思っていたら足りなくて反応してしまったっていうのがありましてこれがおっきな失敗ですね。

他に糸目糊ってのがあってんですけどね太すぎるんでもち米を主とした糊でやってるんです。それも不慣れなこともあってこれまではゴムと糊でやってこれまではずっとゴムでやってたんですね。ゴムで蛭みたいに 防染してってやってたんですけど最近では自分で加工してしまうっていうのをしてるんで、糊やと水洗いできるんですけどゴムだと溶剤で洗わないといけないんで業者に出さないといけないので。全部自分で完結する為に糊でやることを始めたんですよ。でも調合の具合だったりとか糊を浸透させる工程で糊がふやけすぎてべちゃっとしてしまったりしてしまうことがある。この輪郭の部分だったりとか太くなりすぎてかっこ悪いなってなった失敗ですね。

他には、何個か作ってるうちに顔料が減ってきて足りるやろなって思って たら足りなくて、この色に合わせて顔料を作ったんですけど色は違う色め になっちゃってるんですよ。まあ最初の判断が甘かったっていうのもありますけどね笑

#### 顔料って1から調合されるんですか？

そうですね色々作るにあたって1から合わせてます 最初に小さく出して色を調整して行くんですよ。それを大きい面積で見たとき見え方が全然違ったりするんですよ。

#### 様々な工程を一貫してやられてるからこそ時間はかかりますか？

いや〜どうなんだろうかね、いろんな素材に身軽に展開できるっていうのは全部自分でできるからっていうのはありますね。あの本来なら工程ごとに職人さんがおられるんで、そこを品物が回って行くんでね下絵屋さん や糸目糊や防染の職人さんや色差しの友禅職人さんやそれぞれあるんで すけどまあ持って回らなあかんでそれなりに時間がかかるんですよ。コストもかかりますし。だからこそ一貫してやるっていうのは逆に強みでもあるんですよ。



#### 様々な工程を一貫してやられてるからこそ時間はかかりますか？

一人の人間がやるわけですからイメージに向けてのブレが少ないんですよ。自分で考えて自分でやって行くんですよ。分業の場合は人がそれぞれ思いとか感覚とかもあるんでその職人さんごとに特色があるじゃないですか？なんでうまく進めばみんなそれぞれスペシャリストやからすごい良いものができるんですけど完成に向けての理解不足とか発注した人との思いの違いなんかでブレが出てきたりしますよね。だから頼む方もイメージをしっかりと伝えないとけないし仕事をもらった職人さんも意図を汲むように作業するのが一番良い形やからね。分業の いいところは数を作れるところですよ。ベルトコンベアみたいに商品が流れて行くわけですから。やから京都が分業制になったのは京都が着物の流通が多かったんでシステムとしては分業制が一番適してたんですよ。悪いところは職人さん自身が完成を見ることがあまりないんですよ。商品がどんどん流れて行くんでこんなになりましたよって帰ってくるってほぼほぼないんですよ。もうすぐ問屋さんに収まって行くんで。だから自分がした仕事に対する反省ができない。この地色に対してこの色で良かったのかとか、この色じゃ明るすぎたとか。フィードバックができない。

#### これから挑戦していきたいことはありますか？

着物自体着る機会が減ってきてるじゃないですか、だから技術自体も残そうと思った使ってもらえるやり方で形を変えたりだとか文化的な部分を含めて使ってもらえるようにしないと分らないし残らないじゃないですか？着物の生産自体が減ってきていると言われてるし、僕らも今は洋服きてるじゃないですか？結局手でやってるもんなんです、一般的に出回ってる量産的なものと比べたらかなり高価にはなってしまうんですけどそれでなんかスマホケースだとかブックカバーであったりとかで見せることで高いとはい えもうちょっと見てもらえる機会が増えるんかなって。技術だったりとか 和柄って言われるものだったりとか。







友禅  
Yuzen

## 輪郭の太さ

ここにある「失敗」は新商品を作る為に普段使用している絹とは違う素材を使用した際に、脱色が上手く行かず輪郭が太くなりすぎてしまったもの。色を白で保つ為に助剤を入れてはいるが普段の慣れで量の調整を誤ってしまった事が原因。絹と同じ布素材である綿や麻でも顔料の浸透量や脱色具合などが異なる為、何度も試行錯誤をする必要がある。

"Failure" here is a thing that decolorization did not go well and the contour became too thick when using a material different from silk which we normally use to make a new product. Although putting auxiliary agent to keep the color white, it is caused by erroneous adjustment of quantity by usual accustomed. Even cotton and hemp, which is the same cloth material as silk, have different permeation amount and decolorization condition of pigment, so it is necessary to do trial and error many times.

From Google Translate

